



「SDGs未来都市」を目標に里山会公文名ファイブは活動を進めています。

令和4年5月度の活動



①写真 5月29日(日)県民森づくり大作戦活動 ネイチャーゲーム
「初めまして」を活用して、自己紹介

②写真 参加者に学生ボランティアによる仙郷の森を紙芝居にて紹介。この後は、各自思い思いの葉っぱを拾い集めて、葉っぱ図鑑をつくりました。この後は、親子で楽しく森で遊び、14:00ごろ終了しました。



③④写真 5月28日(土)小さな親切運動(ボランティア活動)で静銀裾野支店の20数名の行員の方々が森づくりに協力してくれました。



⑤⑥写真 5月16日(木)森づくり森林ウォーキングコース(ツムギコース)の両サイド雑木伐採片付け



仙郷の森周辺で見られる植物



ヤマボウシ(花期5～7月)

花の咲くころは霧が多い時期で、緑の葉の上の白い花が霧の中で浮かび上がり、また、消えたりする様子は風情があります。4枚の白い花のようなものは花を保護する総苞で、中心の淡い黄緑色の20～30個のつぼみが花です。秋に実る赤い実は、おいしく食べられます。



リョウブ(花期6～8月)

樹皮は白と黄土色の独特の模様でなめらかです。枝先に小さい白花がびっしり咲き、花の少ない夏の林で目立ちます。秋には紅葉し、実がたくさんつきます。庭木や公園樹、建築材などに利用されます。新芽は山菜として天ぷらやまぜご飯にして食べられます。

里山保全活動 令和4年6月度予定

☺☺《親子体験学習》☺☺

- ◇日時 令和4年6月26日(日) 9:30~12:00
 - ◇集合場所・時間 裾野市生涯学習センター(2階学習室2)9:15
 - ◇活動場所 裾野市生涯学習センター(2階学習室2)
 - ◇対象者 小中学生親子・一般
 - ◇活動内容 里山とは?(スライド:自分たちが住んでいる里山を知ろう)
 - ◇服装 普段着
 - ◇費用 無料
 - ◇持物 飲料水・筆記具・マスク
- ※参加者の方は6/23までに連絡をお願いします。
(090-2689-6913(須藤))

箱根外輪山三国山



☺☺昆虫・野鳥が集まる「仙郷の森づくり」参加者募集☺☺

- 日時 毎週木曜日●活動時間 10:00~14:00
 - 集合場所:仙郷の森(多目的広場)●対象:森づくりをやってみたい方
 - 活動場所 仙郷の森(多目的広場)●活動内容 雑木・竹伐採片付け等・落葉広葉樹植樹
 - 参加費 無料●服装 作業できる服装 ※道具はお貸します。
 - 持物 弁当・手袋・帽子・飲料水・弁当・マスク
- ※参加してみたい方で、木曜日以外に参加希望の方は須藤まで連絡をお願いします。090-2689-6913
※活動場所が分かりにくいので、参加者に後日、連絡します。

豊かな森は、自然からの、かけがえのない恵みです。

森と暮らし

「梅」と「梅雨」。この2つはとても関係が深いんです。

たとえば、梅雨の語源(ごげん)に「梅の実が熟して黄色に色づく頃の季節」に由来する説があります。また、梅雨は日本独特の気象と考えられがちですが、天気図を見ると、梅雨前線が沖縄を超えて中国大陸まで伸びている様子でわかるように、中国の華南や華中の沿海部、台湾、朝鮮半島南部といった、東アジア一帯の特有の気象現象なのです。

ちなみに中国や台湾では梅雨のことを「梅雨(メイユー)」や「黄梅雨(ファンメイユー)」と呼ばれています。

そして、梅の原産地も中国というのが定説で、栽培地域は東アジア一帯。梅雨のある地域と、梅を栽培する地域が一致しているので、雨降りの気象現象を「梅」にまつわる言葉にしたのも納得できますね。



さて、梅雨は湿度が高いために黴(カビ)が生えやすい時期で、食中毒の発生もこの時期から夏にかけて急増します。そんな時に重宝するのが、梅を使った加工品。

梅は三毒(食べものの毒、血液の毒、水の毒)を断つといわれていて、梅酢や梅干しなどは、抗菌・防腐作用に優れ、古くから梅酢は傷や器具の消毒に、梅干しはオニギリの具やお弁当に入れて腐敗を防いできました。梅干しづくりは、梅雨の頃の熟した実を塩漬けし、梅雨明け後の土用の頃に、夏の陽射しを数日間当てる「土用干し」をして出来上がります。梅雨の時期を利用して、酸っぱくて美味しい梅干しの熟成が進むのです。

四季の言葉

入梅

立春から数えて百二十七日が梅雨の入り。陽暦では6月11日頃にあたります。

もちろん実際の入梅はその年によって違いますが、6月初旬から中旬になることが多いようです。このことから約一ヶ月間、長雨が続きます。高温多湿の気候からカビがはえやすく「黴雨」と呼ばれていたのを青梅が実る頃でも有り「梅雨」と書くようになったようです。

「野鳥・昆虫が寄ってくる森づくり」をNPO法人里山会公文名ファイブが仙郷の森で行なっています。是非、遊びに来て下さい。



地球は、人間だけが住むだけの場所ではない、動植物と一緒に暮らす場所です。